Global Studies Initiative
The University of Tokyo

グローバル・スタディーズ・セミナー
「グローバル・スタディーズの課題」シリーズ

第6回
「グローバル化は比較社会研究に何をもたらすか？」

有田 伸 （東京大学社会科学研究所教授）

司会　　國分功一郎（総合文化研究科　超域文化科学専攻）

討論者　田辺明生（総合文化研究科　超域文化科学専攻）
伊達聖伸（総合文化研究科　地域文化研究専攻）

使用言語　日本語

日時・会場
2020年10月20日（火）　14:55 - 16:40
Zoom Webinar（下記URLからご登録ください。）
https://bit.ly/3mozZty

要旨

本報告では，グローバル化現象の「様々な媒体を通じた様々な社会間接触の増大」という側面に着目し，それが比較社会研究の進展のためにいかなる契機をもたらすのかを考えてみたい．まずメルヴィン・コーンの古典的な論文に基づき，比較社会研究の諸類型とそれぞれの目的を確認した後，報告者の比較社会研究を事例として，様々な社会間接触への着目，あるいはそこから得られる気付きが研究をどのように進めてきたのかを振り返る．具体的には，報告者が参加したSSM（社会階層と社会移動）研究プロジェクトをはじめとする国際比較調査の経験や，共同研究者として現在携わっているアジアの若年・壮年日本人就業者研究プロジェクトの経験を事例として議論を行う．その際，社会を捉えるための枠組みを対象社会に適用した際の「やり過ごそうと思えばやり過ごせなくもない微かな違和感」の効用についても考えてみたい．

主催　東京大学グローバル地域研究機構（IAGS）